

尺以上亦龍崎觀音及び羽廣の觀音、みな馬の疾を祈るに、驗有といへるも、駒が岳の説に出るなり、○中往古は登る事稀なり、近來は其邊の里俗をりく、登山す、元文寶曆の一覽記あり、其大意、山中廻り九里餘、日數二日半にて歸る、宮田小出より登る事、二里程行て權現釣根と云所より、諸木野薦玄げりて道なし、大木の倒れたる上をまたがり下を倅て登る、まな板倉などいふ所、巔岨なり、延松芝の如くなる上を、枝に取つき登る事數十丁、是よりは露氣なし、夜も物濕ず、此松の外には九輪草の如き草、又黒色の百合あり、常の百合よりは少し小なるばかりなり、紅白の五月躑躅花至て小し、右の草木里に植るといへども、暑氣に至て保たずといへり、のうが池と云有、都て山中に三所池あり、何れものうが池と云、此所の池、東は御所山、南は駒形ある山西は岳つゝき、北は大澤なり、其中に西より見おろす所、長百間、幅六十間と云、水面青き事藍の如し、中に赤き筋あり、其形龍のごとく、南よりうねりて、北の方細く、少し西へひねりたり、此池より三町ばかり登りて、本岳は雲を帶て南に高く、峻巒重り、谷々を見下せば、數十丈漫々たる海上を見るが如く、白雲纏々たり、是より峯まで皆巖石を疊、巒嶒いふばかりなし、小松希に生て、岩間白沙ばかりなり、巖にすがり、又は岩より岩へ飛移り、からうじて登る事十丁餘り、峯は鍋を伏たる如にして、少し南へ長く平也、萱草に似て重ねうすく、萬の紅葉したる如き草所々にあり、夏の頃花咲ぬるや、希に實の結びたるあり、頂上より見渡せば、南はうつき岳の大山有て、飯田の方は見えず、西は尾州伊勢浦、東北は富士、淺間、遠山をはじめ、近國の高山みな見ゆるといへども、村里は一面に平なるのみなり、

〔信濃奇勝錄三久郡〕碓氷紅葉

碓日嶺、熊野の神祠の邊、楓樹多くして、暮秋の頃紅葉盛には、山々錦繡をまとふが如し、實に無雙の景色、いはんかたなし、又散かふ頃は山路にみちて錦を擣が如く、繡を布が如し、